

災害発生時に実施する安否確認活動結果の本部連絡要領(改定案)

(検討材料としてのアイデア。)

1. 現状の災害発生時の本部への連絡手続きルール

(1) 各ブロックでの安否確認担当が「安否確認用世帯地図」を利用して各世帯を回り、

★安否確認地図の各班の集計欄に次の区分で世帯数を記入

①班内世帯数 内要支援世帯数 (地図に記載済み)

②「無事黄旗」掲示世帯数 (○印記載世帯数)

③家屋倒半壊/けが人あり世帯数、内けが人あり世帯数

④確認できない世帯数 (✓印世帯数)

★携帯無線機(原則チャンネル7を使用)で防災本部を呼び出して、上記の①～④を連絡する

(2) 連絡を受けた防災本部は

★連絡の内容を記録する

★連絡がないブロック、確認が異常に遅れているブロックなどに対して携帯無線機で連絡を試み、場合により状況確認者の派遣、応援要員の派遣を行う。

2. 2023年3月の町内防災訓練で判明した課題

(1) ブロックから本部への連絡内容が聞き取りにくく、1つのブロックの報告を聞き取るのにかなりの時間を要した。聞き取りにくい原因は、

①発信者の無線機取り扱い要領(無線機と口の間隔をあげずに話すと聞きづらい)

②班(A, B, C, D, E)の発音、特にB, C, Dは「(子音)+(イー)」のため聞き分けづらい。

(2) ブロックから本部あての更新が一時に集中し、安否確認は終わったが本部に連絡が取れない事態が発生。一部のブロックは無線機を使わず本部まで歩いて報告に来た。

3. 対策案

(1) 聞き取りにくさの解消策(上記2の(1)について)

携帯無線機の定例訓練(隔月第4土曜日午前9時40分)の内容の充実

①「こちらXXブロック、シー/ディー班、確認済み〇〇人」と発声してもらい、聞き取りやすさを確認する。

(スマホと異なり、携帯無線機は口から約30cm程度離してしゃべる必要あり)

②アメリカ(アフリカ)A、ブラジル(ベルギー)B、カナダ(チャイナ)C、ドイツ(デンマーク)D、イングランド(エジプト)E という言い方を覚えてもらう。

③上記の②に代えて、単に、A、B、C、D、Eというのではなく、1A、2B、3C、4D、5Eと班の順序の数字を頭につけるといのはどうか

上記により、本部から「聞き取りにくかったので、もう一度言ってください」ということを極力なくす

(2) 交信集中緩和対策(上記2の(2)について)

ブロックからの発声聞き取りやすくなっても12のブロックが一時に集中すれば、交信混雑・連絡遅延は避けられないので、この対策として、使用チャンネルを複数化する必要がある。

そのためには

①携帯無線機台数の追加

チャンネル2本化(6ブロックに1台)とするには追加1台必要

チャンネル3本化(4ブロックに1台)とするには追加2台必要

②本部要員も増加チャンネル数に見合う要員の追加が必要

⇒ 3本化は本部要因不足で現状困難か

<当面の対策案>

★本部要員1名増で賄えるチャンネル2本化方式を本年度の施策としたい。

★チャンネル複数本科実施後には、ブロックから本部を呼ぶ形態の無線機使用訓練を実施する。(現状の訓練は本部の呼びかけにブロックが答えるのみ)